

for
adult
only



セブントーンカラー

seventeen
color

3

「練習用の水着を買ってきたから試着してね」って言われて・・・着てみたけど
なつきの水着姿を見たら、ムラムラしてきちゃって・・・マズイと思って顔を上げると
なつきがコツチ見て、いたずらっ子みたくなっちゃったニヤリとした
自分の考えてること全部見透かされてるのが分かった瞬間
全身がカリッと熱くなってきてムチャクチャ恥ずかしくて
顔を背けていると、俺の耳元で
「どんな事思い浮かんだの？」
と囁かれて、頭の中は真っ白になった・・・

なつきは俺を押し倒すと

俺の体に自分の体を押しあてて

真っ赤な顔の俺を少し意地悪そうに

微笑みながら見つめる

「な・・・なつき・・・こっちは見んなよ・・・」

「ヤダ・・・今日はこーちゃんの恥ずかしがってる顔
見たくなっちゃったんだもん」

なつきの体の感触は気持ちいいけど

いつものように気持ち良さを素直に表に出せなくて・・・

でも、俺の体は自分の気持ちとは関係なく興奮してくる・・・

なつきは俺をじっと見つめたまま、俺の顔の上にまたがる

目の前にあるなつきのマ●コ

いい匂いがして今すぐにも舐めたいけど、そんなに見つめられると・・・

一瞬の躊躇すら見透かされたような気がして、もう

訳が分からなくなって視線から隠れるように

なつきの股間に顔をうずめ、しゃぶりついた



69の体勢でお互い舐めあつた後
なつきは俺の前に座り、足でチ●ポをしごきはじめた

「……こーちゃんつて足でされてるときの顔スゴクHだよね」

「……そ……そんなこと言うなよ……」

「褒めてるんだよ……ほら、コツチ見て……」

「な……なつき……もう勘弁してよ……」

うれしそうにこちらを見ながら、俺のチ●ポをしごいてるなつき
しかも普段家で見ることのない水着を着ている非日常的な姿が
すごくいやらしくて
だんだん見られることなんか気にならなくなってくる……

チ●ポをこすり上げるスピードがだんだん増してくる

「あ……あ……あああ……なつき……で……出るっ……」



なつきに手を引かれ風呂場へ行くと、なつきはシャワーを使ってチ●ポを
やさしく念入りに洗い始める
なつきの手の感触にたまらなくなってきた
俺はなつきを思いつきり抱きしめた
するとなつきは「あっ」と声を上げ
体がビクンと反応した後、もたれかかってきた
「なつき・大丈夫？」
「・・・うん・大丈夫だよ・・・」
そういつて俺を潤んだ瞳で見つめるなつきは
唇を押し当てて、強引に舌をねじ込んでくる
そして二人でグチヨグチヨのディーブキスをしながら
体をまさぐりあった・・・

はぁ、
はぁ、

はぁ、

はぁ、
はぁ、
はぁ、

座り込んだ俺の上にまたがったなつきは、ゆっくりと腰を下ろしていく
チ●ポがマ●コを飲み込んでいく

「。。な。。なつきい。。。」

俺の上にまたがってゆっくりと腰を上下させるなつき

「。。はあ。。はあ。。。」
激しい息遣いをさせながら上下させる腰のスピードが上がってくる。。。

ただされてるだけじゃ物足りなくて

イキそうになるのをこらえながら

起き上がってなつきの体をキニツと抱きしめ

なつきの腰を持って動きをさらに加速させた

「あっああ。。こーちゃんっ。。。」

アアア
アアア

ぷちゅっ

ぷちゅっ

ぷちゅっ

付付付
来来来



水来

水

水

「俺、お前と一緒にプール通う自信なくなってきた・・・」
「じゃあ、こーちゃんがムラムラしたときはプールでしちゃおう」
「バ・バカッ！何言ってるんだっ！そんな事出来るわけないだろっ」
「トイレとかシャワー室に隠れちゃえば出来るんじゃない？」
「・・・お前本気か？」
「さあ〜どうでしょう〜？(ニコッ)」

(なつきが言うと冗談なんだか本気なんだか全然わからん・・・)

はぁ

はぁ
はぁ

ぶちゅ

ぶちゅ

ピクッ

ピクッ



セブンティーンカラー

seventeen color vol.3



■発行日 2012.03
■印刷所 コーシン出版

■発行/著者
甘酒鳩商店 養酒オへぺ
<http://amahato.sakura.ne.jp>
otayori@amahato-m.sumomo.ne.jp

※18歳未満の方の購入、閲覧を禁じます。
※本書の無断転載、複製、上映、放送を禁じます。